

【一】 次の1～5の上下の漢字に共通する()内の部首を補い、一つの熟語を完成させなさい。

【例】 令(東(にすい)) ↓ 冷凍

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1 倉 干(りつとう) ↓ | 2 召 戊(そうによう) ↓ | 3 良 辟(しんによう) ↓ |
| 4 忍 正(ごんべん) ↓ | 5 農 炎(さんずい) ↓ | |

【二】 次の1～5の四字熟語の二か所の空白に入る数字を合計すると、それぞれいくつになりますか。後のア～オの数群から選び、記号で答えなさい。

【例】 人脚 ↓ 人三脚 ↓ 二三〓五

- | | | | | |
|---|---|-------------------------------|---|--------------------------------|
| 1 唯 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> | 2 <input type="checkbox"/> 分 <input type="checkbox"/> 裂 | 3 <input type="checkbox"/> 時中 | 4 <input type="checkbox"/> 進 <input type="checkbox"/> 退 | 5 朝 <input type="checkbox"/> 暮 |
| 数群「ア 二 | イ 三 | ウ 七 | エ 九 | オ 十」 |

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

直感というの^アは、物事を感覚的に捉えることを示します。新幹線^Iの中で居眠りして目を覚^①ました瞬間に窓の外に広がっている情景に感動するとか、たまに入ったレストランの料理に感銘を受けるとかそういうことですね。^②理屈^{II}ではなく、ありのままの感覚です。

多くの方は、直感と聞くと生まれ持って身につけている才能のようなものだと思うでしょう。A、そうではない。直感は努力によってみがかれ、鍛えられるものなのです。

「面白い」ということを例にとりましょう。本の世界であれば何百冊、何千冊と読むからこそ、次第に自分^{II}の中で感覚が磨かれて、本当に面白い本を直感的にわかるようになるのです。ゲームだってそうですよね。いろんなゲームをやるからこそ、初めて本当に面白いゲームを感覚的に見抜くことができる。「美しい」ということにおいても同じです。何万という花を見た経験があるからこそ、初めて直感で美しい花がどれだかわかる。(中略)

B、人は誰もが直感を持っています。しかし、生まれつき持っている直感そのままでは社会では武器となるまでにはいたりません。直感が社会の中でその人の武器となるには、^{III}努力によって磨かれ、鍛えられなければならないのです。

しっかり努力した人なら、ある程度^{III}の直感を持つているはずですよ。しかし悲しいかな、たとえ素晴らしい直感を持つていたとしても、それを有効活用しているのはごく一部の^b人たちだけです。なぜならば自分の努力に相当の自信がない限り、直感に自信を持つて行動にまでいたることは難しいからです。

以前、ある有名な将棋のプロ棋士がインタビューで同じようなことを話していました。詳しい内容は覚えてないのですが、^{IV}次のような趣旨だったと記憶しています。

「将棋で次の手を考えるの^Vは、直感である。直感によって出てきた決断は多くの場合正しい。あとは自分がどれだけ自信を持つてその直感通りに行動で

きるかだ。ただ、自分の直感に自信を持てるかどうかは、それまでどれだけ努力してきたかにかかっている。」

将棋においてコマの指し方は数えきれないほどあります。^③レンシユウをつみ重ねていけば、「ここに指せば勝てるのではないか」という直感が身につきます。本来はその通りにやれば多くの場合勝つことができる。

しかし、直感がかならずしも一般的な方法論と合っているとは限りません。自分自身に努力してきた自信がなければ、「僕の直感の間違ってはいないか」という不安が次々と浮かんできて、それを指す自信がなくなる。そういう人は「一般的な方法論の方が安心だ」と思って、^⑤フナンに指し、結果として負けてしまう。いざという時に自分の直感を信じて決断できるのは、その人がどれだけ努力によって直感を磨いて、自分に自信が持てるようになったかということに等しいのです。

(石井光太『ぼくらが世界に出る理由』による)

問一 二重傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 空欄A・Bに入る最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ さらに ウ もちろん エ もしも

問三 波線部ア「の」と同じ働きのものを波線部I～Vの「の」の中から一つ選び、記号で答えなさい。

問四 傍線部aを文節に区切ったものとして最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ありのままの／感覚／です

イ あり／の／まま／の／感覚／です

ウ ありの／ままの／感覚です

エ ありのままの／感覚です

問五 傍線部b「それ」とはどのようなことですか。当てはまる語句を本文中から七字で抜き出しなさい。

問六 傍線部c「そういう人」とはどのような人ですか、「直感」「不安」という語句を用いて、三十字以内で説明しなさい。

問七 筆者の考えをまとめた次の文章の空欄に当てはまる語句を本文中からそれぞれ漢字二字で抜き出しなさい。

人が自分の「直感」を（ア）活用するためには、その「直感」を（イ）によって磨き、自分に（ウ）を持つことが重要である。

問八 本文の内容とは合致しないものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 努力した人は必ず自分の「直感」に自信が持てる。

イ 自分の「直感」を信じるためには、「努力」が不可欠だ。

ウ 「直感」という武器は生まれながらに身につけているわけではない。

エ 自分の決断に対する不安は「努力」によって消すことができる

【四】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある日、急に暖かくなつたかと思うと、^① 湿潤な感情をよびますように激しい雨風が荒れ狂い、何か不穏な血が疼きはじめたようなふしぎな気分が湧いてくる。「春がやってきたのだ」と思うときの、^a この生理的な体感^Iは、今も私の心をときめかせる。「() () 暁^bを覚え^bず」

と人はよく口にするが、孟浩然のこの詩も、私はむしろ、「夜来風雨の声、花落つること知る多少」という所まで読んで始めて春の感覚が立ち上がってくる。落ちた椿や、^{*} 開けた水仙の花の香まで、雨に膨らんだ庭土のかがやきとともに感じられてくる。

私は土いじりは子供の頃から大嫌いだ、手入れのゆき届いた土を眺めているのは気持ちがいい。春の土のみずやかな膨らみの上に、ぽとぽとと散る椿の紅の静かさは特別に好きだ。^② 暖かになつた外には心なしか人通りも多く、何よりも子供たちの遊ぶ^c声^cが、日が伸びた夕方まで明るくひびいている。

女の子たちは路面にいろいろなモヨウを描いて、その上を「けんけん。ぱつ」と声を上げながらハねている。^③ 私たちの子供の頃にも同じような遊びはあったが、こうしたかけ声はなかった。子供の遊びの中には「かごめかごめ」とか、「茶つぼに追われて」とか、「花いちもんめ」とか、びっくりするほど古典的な遊びが今もちゃんと残っていて、時代も風俗も飛び越えたこの伝承の力に感動することがしばしばある

雨後の路に 石蹴りの輪は 滲みたり けんけんぱつと 過去はすてたし

梅津英世

という歌を読んだことがあった。作者はそろそろ四十になろうという年頃の人だったが、それもきつと暖かに春めく夕べの子供の遊び声に誘われた思いだったのだろう。いや、女の子の石けり遊びに、「けんけんぱつ」という掛け声を加えた大人があつたとすれば、やはり歌の作者と同じ思いを抱いていたかもしれないと思う。

いまはもう、「お山の大将われ一人」と叫ぶわんぱくもいなくなり、「あとから来るもの突き落とせ」という苛酷な恐ろしさにも、青年になってから、ある日突然、予告もなく出会うのが現代である。昔の子供遊びの唄には深い暗示があつて、擬似的に大人の世界を感じさせる言葉も多かった。ふと耳にして、今も大人の心がゆすぶられるのはそのせいだろう。

子供の頃、一番きらいだった遊びは、「ことしのぼたん」という遊びである。午後の日ざしの力が少し落ちはじめた頃の、穏やかな明るい、満ち足りた陽光の中で、呪文のようなふしぎな言葉を揃って唱える。「ことしのぼたんはよいぼたん、おみみをからげてすっぽんぽん」と。あれは一体何だったのか。この遊び唄もまだ生きていて稀々に耳にすることもあるが、女の子だけで遊ぶ少し陰惨な問答体をなしている。

勝負事に弱い私は、たいていじゃんけんにも負けて鬼になり、鬼の言葉を唱え、友だちは「誰かさんのうしろに蛇がいる」と囁きた。私は足弱の蛇だったので、蛇の正体をあらわしてからもなかなか人がつかまえられず、逃げ飽きた誰かがお情けでつかまってくれるまで人の後姿を追いかけなければなら

らなかった。その上、また、誰が蛇になっても足弱の私はねらわれ、すぐにつかまってしまったから、この遊びの中ではほとんどが蛇の役ばかりだった。いつもいつも蛇にされてしまう悲しみは、たぶん私の弱者の自覚のはじめだったように思われる。

(講談社 馬場あき子『季節のことば』による)

(注) 孟浩然・・・中国唐代の代表的詩人

關けた・・・盛りの状態にあること

問一 二重傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 波線部I「激しい」、II「暖かに」、の品詞名を漢字で正しく書きなさい。

問三 傍線部aの「この生理的体感」とありますが、それがどういうものかを具体的に表現している箇所を文中から二十字以内で抜き出しなさい。

問四 傍線部bは日本のことわざにもなった漢詩の一部ですが、()の中に漢字二字の熟語を入れて、完成させなさい。

問五 傍線部cの意味として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 予想以上に人通りも多く

イ おもいのほか人通りも多く

ウ 気のせいか人通りも多く

エ 気にならないほどに人通りも多く

問六 傍線部d「古典的な遊びが今もちゃんと残って」とありますが、その意味を端的に表わす漢字二字の熟語を本文から抜き出しなさい。

問七 傍線部eの短歌は何句切れですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 初句切れ

イ 二句切れ

ウ 三句切れ

エ 四句切れ

問八 傍線部f「同じ思い」とはどういう「思い」のことですか。解答欄の形式に合うよう、本文から二十字以内で抜き出しなさい。

問九 傍線部g「苛酷な恐ろしさにも」は後のどの部分にかかりますか。次のア～エの中からもっとも適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 青年になってから

イ ある日突然

ウ 予告もなく

エ 出会う

問十 傍線部h「一番嫌いだ」とありますが、次の()内に「足弱」、「蛇」の二語をそれぞれ一度ずつ使い、二十字以内の文を正しく入れてその理由を答えなさい。

私は()。

【五】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(フリガナはすべて原典にもとづいていますが、出題の都合上、一部改変しています)

ある時、鶴、孔雀と淳熟してあそびけるに、孔雀、わが身を賞めて申しけるは、「①世の中に、我が翼に似たるはあらじ。絵にかくとも及びがたし。

光は玉にも勝りつべし」など、誇りければ、鶴、答へて云く、「御辺の自慢、尤も予議せぬ事にて候。空を翔けるものの中に、御辺に並びて、果報

きつと…だろう

あなたのご自慢は当然で、別に否定しようとは思わない

幸運

めでたきものは候まじ。但し、②御身に欠けたる事、二つ候。一つには、御足元汚げなるは、錦を着て、足に泥を付けたるが如し。二つには、鳥とい

豪華な織物

言うのは

ば、高く飛ぶをもつて、その徳とす。御辺は飛ぶといへども、遠く行かず。これを思へば、翼は鳥にして、その身は③獣にて、あんなるぞ。④少しき徳に

能力・美点

あるのだぞ

誇りて、大きな損をば弁へずや」⑤とぞ、恥を示しける。それよりして、孔雀、わづかに飛上るといへども、この事を思ふ時は、⑥翼弱りて、勢

欠点

わかつていない

恥ずかしい思いにさせた

ひなし。

その如く、人として、我が誉れをさぐる時は、人の憎みをⅡかうむりて、果てには、誤りをいひ出さるゝものなり。我慢の人たりといへども、道理を

自分の長所を誇る

厳しく指摘されるものである

うぬぼれ

もつて、その身を諫めば、用ひざる顔をするといふとも、心には、「げにも」と思ひて、

忠告すれば、それを受け入れない顔をしていても

ほんの少しも謙虚な気持ちは生じるものだ

いさかへりた

聊も謙る心あるべし。

鶴



孔雀



(岩波書店 『万治絵入本 伊曾保物語』「孔雀と鶴の事」による)

(注) 伊曾保物語：紀元前六世紀、ギリシャのアイソップス（イソップ）が作ったとされる「イソップ寓話集」を翻訳したもの。日本では十六世紀末、キリスト教の

伝来とともに輸入されたものとみられる。江戸時代にはさまざまな翻訳版が出版され、その教訓的な内容で人々に愛読された。

問一 二重傍線部Ⅰ「いへども」、Ⅱ「かうむりて」を全てひらがなで、現代仮名づかいに直さない。

問二 波線部 a、b の意味として適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- a めでたき 「ア うらやましい イ すばらしい ウ 味気ない エ 役に立たない オ いたましい」
- b げにも 「ア それは、実のところ イ いや、違う ウ まあ、何と エ なるほど、その通り オ ところが、本当は」

問三 傍線部①「世の中に……あらじ」はどういうことを言おうとしていますか。次のア～オの中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 孔雀の翼はたくましく、どの鳥よりも遠くまで飛べること。 イ 孔雀の翼は大きく立派で、他の鳥を圧倒していること。

ウ 孔雀の翼は軽く、どの鳥よりも高く舞い上がることができること。 エ 孔雀の足は細く優美で、どの鳥よりも地上を優雅に歩くこと。

オ 孔雀の翼は華麗で美しく、どの鳥も並び立つものはないこと。

問四 傍線部②「御身に欠けたる事、二つ」の内容を、それぞれ説明しなさい。ただし、文末は必ず「……こと」で統一しなさい。

問五 傍線部③「獣」、④「少しき」と対^{たい}になるよう用いられている語を、それぞれ文中から抜き出しなさい。

問六 傍線部⑤「とぞ、恥を示しける」には古典文法特有の、ある法則が使われています。それは何か、答えなさい

問七 傍線部⑥「翼弱りて、勢ひなし」という、孔雀の様子をうまく言い表した慣用句を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 虻蜂とらず イ 泣きつ面に蜂 ウ 青菜に塩 エ 二の足を踏む オ 猫に小判

問八 本文の内容に合致するものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲がよかった鶴と孔雀であったが、孔雀の高慢な態度が原因で、言い争いとなった。

イ 鶴は、翼があっても飛べない孔雀を、鳥でもないし獣でもないと批判した。

ウ 高慢な孔雀は、鶴の言うことには納得できず、自分の実力を示すために、空へ大きく羽ばたいた。

エ 自分の美点ばかりを自慢する孔雀は、自分では気づかない欠点を、鶴に指摘され恥をかいた。

オ この寓話(たとえ話)が示す教訓は、油断をすると大きな恥をかくということである。

国語解答用紙

【五】			【四】					【三】			【二】																						
問五	問四	問一	問十	問八	問四	問三	問一	問七	問六		問一	問一																					
③		I					①	ア			①	1																					
④		II												イ				②	2														
																		問五		②	ウ	③											
問六																												④	3				
																		問六															
																												の法則					
	問七																				A												
問八																			5														
問二																								【二】									
a																									1								
b																										2							
	問三																								3								
																								4									
			問九																							5							

受験番号
得点

国語解答用紙

【五】			【四】					【三】				【二】				
問五	問四	問一	問十	問八	問四	問三	問一	問七	問	六	問一	問一				
③	足が汚いこと	I	足	暖	春	不	①	ア	自	努	①	1				
鳥		いえども	弱	か	眠	穩	①	有効	分	力	さ	創刊				
④			大きなる	で	に	問五	な	イ	の	し	て	②	2			
問六				い	春		血					②	直	き	③	超越
係り結び				遠く(高く)まで飛べないこと	II	つ	め	ウ	が	ウ	に	た	自	④	3	
						も	く	問六	疼							自信
問六						い	夕		き	③	安	信	⑤	4		
の法則						つ	べ	は	③						跳	ア
						も	の	承		じ	④	じゅもん	感	な		
問七						蛇	子	め	④	いんさん					⑤	る
ウ	に					供	た	⑤			いんさん	う	人	め		
	問八	さ				の	よ		⑤	いんさん					に	、
エ	れ	遊	う			⑤	いんさん	な			、	、	問三	V		
	て	び	な						⑤	いんさん					ふ	、
問八	し	声	ふ	⑤	いんさん	し	、	、			問五	素晴	3			
エ	ま	に	し						⑤	いんさん				ぎ	、	、
	う	誘	ぎ	⑤	いんさん	な	、	、			問七	I	エ			
問九	か	わ	な						⑤	いんさん				気	、	、
エ	ら	れ	気	⑤	いんさん	分	、	、			問九	II	ア			
	問二	た	た						⑤	いんさん				分	、	、
問二	イ	思い	問九	⑤	いんさん	分	、	、			問二	I	ウ			
a	エ								エ	⑤				いんさん	分	、
問三	オ	エ	⑤	いんさん	分	、	、	問四	I		ウ					
オ	オ	エ								⑤		いんさん	分	、	、	問五

受験番号
得点